



# ほむる

建設的な生き方へのお手伝い ( Just do it ! )  
 ( カウンセリングのことは当社までお問合せ下さい )  
 【今月の一冊】 経営以前の 社長の教科書  
 大石豊司 著 現代書林  
 ホームページ URL <http://www15.ocn.ne.jp/prime21/>

発行日 2012年11月1日 Vol.121  
 発行元 有限会社プライム・コーポレーション  
 代表取締役 渡邊敏徳  
 〒401-0015 山梨県大月市大月町花咲147番地  
 TEL 0554-22-2810 FAX 0554-22-2859

## インフラ

高度成長期に作られ、私たちの暮らしを支えてきた「インフラ」。老朽化が進み、莫大な維持更新費が必要になってきました。

「国土の均衡ある発展」をスローガンに、1960年代から1970年代の高度成長期に整備された道路や橋、そして上下水道など。全国で通行が規制されている危険な橋は1300ヶ所、水道管やガス管の破裂も相次いでいます。私たちの豊かな生活を支える「インフラ」の維持、管理にかかる費用は、年間9兆円にもなります。2010年には維持、更新費用が、新規建設費を超えてしまいました。20年後には維持、更新費用が年間16兆円になると試算が出されています。

首都東京においては、開業から50年を迎える首都高速があります。1日平均100万台が利用する都心の交通網の要となっています。全長300kmの首都高速の維持、補修費は年間600億円かかるそうです。しかし、交通の安全を担保しなくてはならない工事がたくさんあるにも関わらず、未補修箇所は96000ヶ所にも及びます。また、全国の水道管の長さは60万kmもあり、その4分の1の16万kmが耐用年数を超えています。

全国では、人口の減少により人が住まなくなる地域が増加していきます。そして、2050年には今より3100万人以上も人口が減ってしまい、9700万人になってしまうことが予想される日本において、どんな国づくりをしていくかは「インフラ」のことばかりではありません。

ちょっとビックリしたことなのですが、総務省が行った全国110ヶ所の自治体へのアンケートで、「老朽化の実態を把握していますか」という質問に、80%の自治体が把握していないと答えています。

来月、私たちの意思を示す衆議院議員選挙が行われますが、どんな未来の日本を創っていかねばならないかを、しっかりと示してくれる人や政党に投票したいと思います。

利益を受ける人達の意見を聞いてきた「受益者市民」から、現状から未来のまちづくりをどうしていくのかを丁寧に説明していき、市民との合意を得ていく「経営者市民」という形が必要な時代が来ているのだと感じています。



## 『ブラックシープ』の法則

「ブラックシープ」という言葉はあまり聞くことがないと思います。英語では“厄介者”とか“はみ出し者”という意味です。つまり「異端児」。

あまりいい印象では使われない言葉で、実際にも悪い意味として使われていることが多いようです。白い羊の中に一匹だけ黒い羊がいたとしたらどうでしょう…。かなり目立った存在になります。

小さい頃からの自分を振り返ってみると、みんなと同じことをすることにちょっと抵抗感がありました。何となく右といえば左と言いたくなる「あまのじゃく」なところは今でもあるようです。しかし、人と違う考え方が悪いということではないと思うのです。人と違う視点で物事を見られるのは、ビジネスにおいては“強み”になっています。

日本人の傾向として、人と違うことをとても嫌う国民性があります。失敗したときのことを考えてしまうからです。『ブラックシープの法則』は、「人と違うことを勇気をもってする」という意味です。

どの世界も、「成功者」と言われる人たちは約5%しか存在しないと言われています。つまり、成功者は5%、それ以外が95%です。

サッカーの本田圭佑選手はこう言っています。「何で他人が俺の進む道を決めんねん。自分の道は、自分が決める」。これもまさに、ブラックシープの考え方だと思います。他の人が経験できない失敗を自分の宝にして成長していきたいものです。

### 【座右の銘にしたい名言】



どうもがいてもだめなときがある。手を合わせるしか方法がないときがある。本当の目が開くのはそのときである。

(相田みつを/詩人)